

# 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課： 道路局高速道路課

担当課長名： 伊勢田 敏

事業名	近畿自動車道 <small>なごやこうべ</small> 名古屋神戸線 <small>こもの かめやまし</small> 菟野～亀山西 JCT	事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路㈱
起終点	自) 三重県 <small>みえ こもの</small> 三重郡菟野町大字潤田 至) 三重県 <small>かめやま あさかやま</small> 亀山市安坂山町			延長	1.5 km
事業概要					
近畿自動車道名古屋神戸線は第二東海自動車道と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。					
H17年度事業化	H6年度都市計画決定	H23年度用地着手		H23年度工事着手	
全体事業費	約1,959億円	事業進捗率	24%	供用済延長	0 km
計画交通量	約38,700台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 3.3 (残事業) 6.0	総費用 (残事業)/事業全体 1,107/2,018億円 事業費： 924/1,835億円 維持管理費： 183/183億円	総便益 (残事業)/事業全体 6,651/6,651億円 走行時間短縮便益： 5,878/5,878億円 走行費用減少便益： 614/614億円 交通事故減少便益： 159/159億円	基準年 平成28年	
感度分析の結果			残事業について感度分析を実施		
交通量変動	B/C=6.6 (交通量 +10%) B/C=5.4 (交通量 -10%)				
事業費変動	B/C=5.5 (事業費 +10%) B/C=6.6 (事業費 -10%)				
事業期間変動	B/C=6.0 (事業期間 -1年) B/C=5.8 (事業期間 +1年)				
事業の効果等					
・円滑なモビリティの確保（並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる） ・個性ある地域の形成（IC等からのアクセスが向上する主要な観光地が存在する） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる）					
他10項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見					
【三重県】 「近畿自動車道名古屋神戸線（菟野～亀山西 JCT）」は、東名、名神高速道路等とのネットワーク化によるリダンダンシーの確保、東名阪自動車道の慢性的渋滞解消、産業の生産性向上や地域の活性化に資する道路です。 三重県及び沿線市町では、開通予定にあわせてアクセス道路など関連する道路整備を進めているところであり、当事業を継続し、予定通り平成30年度に完成するようお願いします。 合わせて、鈴鹿PAスマートIC及び亀山西 JCT のフルジャンクション化が本線と同時供用するようお願いします。					
事業評価監視委員会の意見					
対応方針（原案）のとおり了承。 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 並行する東名阪道（四日市 JCT～四日市 IC 付近）で、2012年12月から暫定三車線運用を開始し、渋滞回数は減少しているが、依然として渋滞が発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
用地取得は概成し本線工事を全面展開中。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
計画通り進捗しており、完成予定年度までの開通が可能					
施設の構造や工法の変更等					
新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針					
事業継続					
対応方針決定の理由					
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。